

小学校第3学年3組 図画工作科学習指導案

平成30年11月8日
場所 図工室
授業者 高添比登美

【キーワード】 五感 造形的な気付き 自分の見方や感じ方 対話 能動的な鑑賞活動

1 題材名 さわって みて 感じとろう ～感じとった形から～

2 学習内容

本題材は、形や色、材料などの多様な諸外国の民芸品をブラックボックス（以下、箱）に入れて触った後に、実際に見ながら触って手や指先から形や材料の質感の違いなどを感じ取ったり、考えたりしたことを、紙粘土で立体に表す造形活動につなげていく、表現と鑑賞活動が相互に関連した題材である。次期学習指導要領の第3・4学年の内容「B鑑賞『思考力、判断力、表現力等』ア身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品のよさや身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取って考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること」を受けて設定した。箱の中に民芸品を入れて視覚を遮り、触ることで、手や指先に意識を向けて民芸品の形を能動的に感じ取ろうとする意識が高まる。また、手や指先の触覚から紡ぎ出す形や材料の手触りなどの情報を頼りに、これまでの自分の経験と比較し、自己内対話をしながら、懸命にイメージを探る鑑賞活動になると考える。また、数人の班で一つの箱の中の民芸品の形や質感などを探ることで、感じ取った形状や表面の細かな手触りを確かめようと、自然な対話による言語活動が生まれるだろう。他の班の民芸品を触って形や質感等を比較する活動を設け、自分と友達の民芸品の造形的な気付きについて、一人一人の見方や感じ方の違いに気付いたり、民芸品を一同に並べ、その形や色、材質などから、それぞれの国や地域は違っても共通して込められた思いや願いについて考えたりすることで、触覚や視覚などの五感や心を使った鑑賞活動につなげたい。その後、紙粘土による表現活動を設定することで、題材導入時の鑑賞活動で感じ取ったり、考えたりしたことを、表現に試したり、生かしたりし、自分の見方や感じ方の深まりや広がりを実感できる題材にしたい。そのために、題材を通して、児童の造形的な気付きを一枚のワークシートで残す。残した形の凹凸や手触りなどの造形的な気付きを、その後の表現活動につなげるなど、一つの題材において、表現活動と鑑賞活動を往還する手立てとする。本時では、鑑賞活動で感じ取った形や手触りからもったイメージと、実際に見ながら触って確認した形や色などの感じから生まれるイメージの差異や、友達との対話を通して広がった自分の見方や感じ方を、その後の造形活動に生かす造形的な見方・考え方などの資質・能力を高めていきたい。さらに、児童にとって珍しい、諸外国の民芸品を鑑賞の民芸品とすることで、何気なく見たり、使ったりしている身の回りの日用品や自分の持ち物の造形的なよさや面白さ、作り手の思いや願いなどに目を向けるなど、生活の中の形や色などに楽しく豊かに関わり、創造しようとしていく資質・能力を高める高学年の造形活動につなげていきたい。

3 児童の状況

本学級の児童は、第3学年となって箱の中にある、お面の質感や凹凸を触ってみたり、水彩絵の具で画用紙に描いた線や色を見立てたりして楽しむ造形活動を体験している。また、「校庭に不思議な生き物が住んでいたら、どんな場所にいるか」と問い掛けて場所を探し、その場に相応しい生き物を土粘土で形成する活動にも取り組んだ。その活動では、その場所に作品を置いて再び鑑賞するなど、作品と場所を一緒に捉えた造形活動となった。場所から想像したイメージを土粘土で具体化する活動の際に、手足などの大まかな形状や体の表面の細かな凹凸などを表せなかったり、粘土同士のつなぎ方がうまくいかなかったりするなど、思い描いたイメージ通りに表現できず落ち込む姿も見られた。それでも、場所から発想した生き物を、具体化したいという思いや意欲は続き、造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、友達と対話しながら楽しく活動をふり返ることができた。本題材を通して、児童が見たままの形や色などを主観的に捉えるだけでなく、手や指先に意識を向けて触った感覚や見ながら触って新しく広がった造形的な

見方・考え方を、自分が表したいと思ったイメージを具体化するなど児童の豊かな表現につなげる活動にしたい。

本校図画工作科では、「自ら関わり、造形的な価値を見出す力を育む図画工作科の授業づくり」に取り組んでいる。表現や鑑賞の造形活動を通して感じた思いや気付きを一枚のワークシートに残していく中で、児童自身が自分にとっての造形的な学びにつなげ、児童にとっての造形的な価値を見出す児童の姿を目指していきたい。そして、その姿を通して、本題材でねらう資質・能力の育成を目指したい。

4 指導について

本時の導入では、以前行った題材を児童に想起させ、触って分かる造形的な気付きを問い掛け、引き出した児童の言葉を本時の造形的な視点とし、めあてを提示する。活動では、各班に本時の鑑賞の対象となる民芸品を箱の中に入れ、まずは箱の中の民芸品の大きさや形を確かめる時間を設定する。その時、初めに感じ取った造形的な気付きや予想をワークシートに言葉や絵などで自由に表すよう伝える。手触りから伝わる触感から思い描いたイメージを、紡ぎ出そうと児童は意識をより手や指先に向けて、班の友達と話す必然的で自然な対話が生まれる手立てになると考える。その後、自分の班の民芸品の形や質感を確かめるために、他の班の民芸品を鑑賞する時間を設ける。他の班の民芸品を比べながら触ることで、形や質感などを確かめる時間になると考える。最後に、箱を開け、触覚を頼りに感じ取った形や手触りからもったイメージと、実際に見ながら触って確認した形や色などの感じから生まれるイメージの差異などから、新たに分かったことや民芸品の形や色などの造形的なよさや面白さなどの気付きをもつことができるだろう。その後、民芸品を一同に並べて、形や色、材料の装飾から、それぞれの民芸品に込められた思いや願いについて考える時間を設ける。本時の終末では、本時の活動で新しく気付いて分かった造形的な気付きを基にふり返り、児童の活動を価値づけるとともに、次時では、本時で獲得した造形的な気付きを生かした造形活動を行っていくことを伝える。第2・3時では、身の回りにある、触って面白いと思う凹凸を紙粘土でかたどり、形づくりの造形活動を行う。題材の導入で行った諸外国の民芸品の鑑賞活動をふり返りながら、かたどった形を基に、思いや願いが表れる、「附属小学校の守り神をつくろう」と提案する。身の回りの面白い凹凸に着目しながらかたどった物の形や場所、かたどる物の材質を基に、自分なりの願いや思いをもった造形活動を進めるように促す。題材の終末では、友達の作品を相互に見合う鑑賞活動を行う。その際、自分や友達のこれまでの造形的な気付きを記したワークシートと比べながら見ることで、友達の作品の造形的なよさや面白さ、自分と友達の見方・感じ方の違いなどへの気付きを新たに実感する能動的な鑑賞活動を行い、本題材から見出した新たな価値に気付く題材の終末としたい。

5 本校図画工作科の捉える3つの学びの姿

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
教科全体	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉えている。 思いの実現に向けてイメージをもち、試行錯誤を繰り返しながら造形活動に取り組んでいる。 造形的な活動を確かめたり、深めたりすることを通して、自分の成長やよさ、可能性に気付き、次の活動や日常生活に自らつなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や場所、作品と向き合うなど自己内対話を通して、形や色などの感じを基に自分なりのイメージをもち、造形的な見方・考え方を働かせている。 児童同士が互いの活動や作品を見合いながら、考えたことを伝え合ったり、感じたことや思ったことを話し合ったりする活動を通して、自分の見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現及び鑑賞の活動を通して、感性や想像力を働かせ、対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら価値を見出そうとしている。
本題材	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の民芸品を視覚や触覚などを働かせて鑑賞し、造形的なよさや面白さを造形的な視点で捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の民芸品と向き合い、自己内対話や友達との対話を通して、形や色、質感などを捉えて自分なりのイメージをもち、造形的な見方・考え方を働かせている。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動を通して、感性や想像力を豊かに働かせ、民芸品や作品の形や色の造形的な気付きから、自分にとっての価値を見出そうとしている。

6 題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 自分の視覚や触覚などの感覚を通して、形や大きさ、材料の質感の感じ方が分かり、自分の表現につなげること。 	<ul style="list-style-type: none"> 民芸品や身の回りの凹凸の造形的なよさや面白さを感じ取ったことを、考えたり、紙粘土で表したりして、自分の見方や感じ方を広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や友達との対話を通して、形や色、質感などの造形的なよさや面白さを楽しく感じ取ったり、表したりするなど、進んで造形活動に関わること。

7 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

手や指先の触覚，視覚で感じ取った形や色などの感じ，材料の質感などの民芸品の造形的なよさや面白さを基に，民芸品に込められた思いや願いを感じ取ることができるようにする。また，身の回りの面白い凹凸を紙粘土でかたどり，その形や場所から抱いた自分なりの思いや願いを形に表したり，自分や友達の作品のよさや面白さを味わったりすることができるようにする。

(2) 題材の評価規準

ア 自分の視覚や触覚などの感覚を通して，形や大きさ，材料の質感の感じが分かり，自分の表現につなげることができる。 【知識及び技能】

イ 民芸品や身の回りの凹凸の造形的なよさや面白さについて感じ取ったことを，考えたり紙粘土で表したりして，自分の見方や感じ方を広げることができる。 【思考力，判断力，表現力等】

ウ 自分の感覚や友達との対話を通して，形や色，質感などの造形的なよさや面白さを，楽しく感じ取ったり表したりするなど，進んで造形活動に関わることができる。 【学びに向かう力，人間性等】

8 題材の指導計画

次	時	主な学習活動 (○) と予想される児童の考え (・)	教師の働きかけ (○) と主な評価規準 (◆) 【観点】
一	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 箱の中にある民芸品の手触りを基に，友達との対話を通して，絵や言葉に表す鑑賞活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・表面がつるつるしているけど，ところどころに筋みたいなのがあるな。 ○ 手触りで感じ取ったイメージと，見ながら触って確認したイメージの差から，新たに分かったことや，民芸品の形や色などの造形的なよさや面白さ，作り手の思いや願いなどについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・触るだけでは分からない。でも見るだけの時よりも，触って見ることで凸凹の感じが分かった。 ・形や色などには，それぞれの国や地域の人々の願いが込められているんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初めに感じ取った造形的な気付きや中身の予想をワークシートに言葉や絵などで自由に残すように伝える。 ○ 手や指先で感じ取った造形的な気付きを基に，試行錯誤して探ろうとする自然な対話が生まれるように，班は5・6人とする。 ○ 触るだけでは分からなかった，新たに気付いた民芸品の造形的なよさや面白さを問いかけ，児童の活動の価値付けを行う。 ○ 全ての班の民芸品を並べて，全ての民芸品の国や地域，材料などを想像させて，それぞれの民芸品の特徴の違いや民芸品に込められた思いを感じ取るよう促す。 ◆ 手や指先の触覚・視覚を通して，鑑賞の民芸品の造形的なよさや面白さについて，感じ取ったり考えたりして，自分の見方や感じ方を広げている。 【思考力，判断力，表現力等】
二	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りの面白いと思う凹凸を，手で触りながら確かめ，平らに伸ばした紙粘土で型を取る活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・木の幹の表面が面白いな。 ・遊具にあるタイヤの溝の形が，それぞれ違って面白い。 ○ かたどった形のよさや面白さを生かして，「附属小学校の守り神」を紙粘土で表す活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・木の幹のゴツゴツをかたどった形を生かして，何かの守り神をつくらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の鑑賞活動で獲得した造形的な気付きを視点とした造形活動になるように，手で触りながら身の回りの面白い凹凸を探そう促す。 ◆ 身の回りにある面白い凹凸を，手で確かめながら紙粘土でかたどっている。 【学びに向かう力，人間性等】 ○ 紙粘土でかたどった形の特徴や場所を生かした附属小学校の守り神を表すよう伝える。 ◆ 面白い凹凸の特徴を生かしながら，表したいことに合わせて，紙粘土でどのような形になるか考え，表現につなげている。 【知識及び技能】
三	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達が表した作品を相互に見る鑑賞活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・○○ちゃんは，タイヤの溝の縞模様をかたどって蝶の羽にしているよ。蝶の形をした遊具の守り神を表していて面白いな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や友達のこれまでの造形的な気付きを記したワークシートと作品を見ながら，友達の作品の造形的なよさや面白さや自分と友達の見方・感じ方の違いなどへの気付きはないか問いかける。 ◆ 第1時の鑑賞活動で示した造形的な視点を基に，友達の作品の造形的な面白さを感じ取っている。 【思考力，判断力，表現力等】

9 本時の指導

(1) 本時の目標

民芸品について、手や指先の触覚、視覚で感じ取った自分のイメージ、形や色などの感じ、材料の質感などの造形的な視点を基に、造形的なよさや面白さが分かり、友達との対話を通して感じ取ったり考えたりして自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。

(2) 本時の評価規準

イ 手や指先の触覚、視覚を通して、民芸品の造形的なよさや面白さについて、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。 【思考力、判断力、表現力等】

ウ 自分の感覚や友達との対話を通して、形や色、質感などの造形的なよさや面白さを、楽しく感じ取ったり表したりするなど、進んで造形活動に関わることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 本時の展開【全4時間 1/4】

学習活動と児童の反応 ()	形態	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
1 以前、経験した学習を基に、触って分かることを考える。(10分)	斉	1 以前行ったお面を鑑賞する授業を想起させ、触って分かることについて児童から引き出す。
2 めあてを確認する。		2 形や質感、重さなど児童から出た言葉が、この後の活動の造形的な視点となることを伝える。
3 箱の中の民芸品を鑑賞する。(30分) (1) 班に分かれて、それぞれの箱の中身を触る。 五感を使って、箱の中身を感じ取ろう。	個	3-(1) 手や指先の感覚に意識が向くように、箱の中に鑑賞対象の民芸品を入れて視覚からの情報を遮るとともに、5・6人の班に一つの箱を用意することで、児童同士の必然的で自然な対話が生まれるようにする。
(2) 別の班の箱の中の民芸品を触って鑑賞する。	G	◆ 手や指先の感覚を通して、箱の中の民芸品から感じ取った形や質感などの造形的な気付きを言葉や絵で表している。(活動の様子、発言、ワークシート) 【思考力、判断力、表現力等】
(3) 全ての班の民芸品を比べながら、新たに分かった造形的な気付きを話し合う。	斉	A 進んで民芸品を触り、感じ取った形や質感などの造形的な気付きを、友達と話したり、ワークシートに言葉や絵で表したりしている。 B 感じ取ったことを友達と話したり、言葉や絵で表したりしている。 → 感じ取った気付きを、造形的な視点から表すよう言葉かけを行う。 C 触っているが、言葉や絵で表していない。 → 感じ取った気付きを引き出す言葉かけを行う。
4 本時をふり返り、次時の活動を見通す。(5分)	斉	3-(2) 別の班の民芸品を触ることを促し、形や手触りなど比べる機会を設ける。 3-(3) 触るだけでなく、見ながら触ることで、新たにわかったことや感じたことを全体に問いかけ、触ってみた時との違いや気付きを発言させる。 3-(4) 全ての班の民芸品を並べて、全ての民芸品の国や地域、材料などを想像させて、それぞれの民芸品の特徴の違いや民芸品にどんな思いが込められているか思いを感じ取るよう促す。 4 本時の活動で新しく分かった造形的な気付きを基にふり返り、児童の活動を価値づけるとともに、次時では、本時で獲得した造形的な気付きを生かした造形活動を行っていくことを伝える。